

令和2年度保護林等モニタリング調査結果一覧表

No.	計画区	保護林名称	保護林区分	保護林番号	面積 (ha)	実施間隔 (年)	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	5年の要素					シカ	クマ	病虫害	備考	
							H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	ア	ウ	エ	オ	キ					
1	会津	奥会津森林生態系保護地域	生態	4	83.992.18	10	○																									方形の植生プロット(004-1~004-8)として設定されている自然低木群落、湿原・雪田植物群落、自然ササ草原も群落構造に大きな変化は見られず、良好な状態で維持されている。 また、今年度新たに設定した尾瀬側の円形プロット2点については、004-9は自然林でオオシラビソの大径木が上層を占めており、林床植生についても豊富で、次世代を担う稚樹、実生も多く生育していた。004-10は二次林で、004-9ほどの大木は生育していないが、健全なオオシラビソ群落が生育している。林床植生についても004-9と同様に豊富で、実生や稚樹も多く確認されている。	
2		飯豊スギ希少個体群保護林	希少	6	36.00	10	○					○																				保護対象群落であるスギ群落は、胸高直径65cm程度の高齢木を筆頭に、様々な幹径のものが混在し、稚樹や実生見られ、主木、更新木ともに良好に生育していると評価される。	
3		喰丸峠ケヤキ遺伝資源希少個体群保護林	希少	7	5.93	10	○					○																				上層を構成する高齢のケヤキは概ね健全に生育しており、その林床では、次世代を担うケヤキの実生や稚樹が確認できたことから、保全対象であるケヤキの遺伝資源の保存には大きな問題は生じていない。 今年度の調査の結果から、本保護林は良好な状態が維持されていると評価する。	
4		龍ノ山ヒメコマツ遺伝資源希少個体群保護林	希少	8	5.63	10	○					○															○					調査プロット内外には、ツキノワグマの樹皮剥ぎによる被害が確認された。 上層を構成するキタゴヨウマツは健全に生育している。次世代を担う中低木は見られないが、実生は確認されている。	
5		雄国沼湿原希少個体群保護林	希少	9	174.13	5	○					○					○															過年度と比較し低木層の侵入が多く確認され、出現種数も増加していることから、湿原の乾燥化が進行しているとみられる。特に湿原の入り口付近の構成種及び出現種数の変化が著しい。 ・湿原内に獣類(クマ)の足跡のようなものを確認。イノシシを目視。	
6	利根下流	根本沢シオジ遺伝資源希少個体群保護林	希少	40	21.28	5	○					○					○															上層を構成するツゲ等の生育も確認され、健全に生育している。 ・低木層、草本層が少なく、林床は見通しの良い状態。一部の低木は1.5m以下の高さまで梢端や枝先に食痕が見られる。草本層について、2年生程度の実生は点在するが、草本の分布は僅かで落葉に覆われた林床が露出している。 ・急傾斜地であり、表土が流出し一部の立木の根が露出している。	
7	伊豆	ハ丁池・皮子平生物群集保護林	群集	13	636.75	5	○					○					○															上層を構成するラリヤビシヤウ等は病虫害、気象害等は見受けられないが、保護林全体としてニホンジカによる被害が著しく、ニホンジカの忌避植物とされている植物の生育が目立つ。林床植生の生育も僅かであり、保護対象種の低木や実生の生育も僅かであった。	
8		皮子沢モミ希少個体群保護林	希少	74	11.26	5	○					○						○															上層を構成するモミは老齢木が多く、幹折れや枯損している個体が散見される。また、保護林内部の林床植生の多くが地衣類に覆われており、次世代を担うモミの低木、稚樹・実生はほとんど見られない。
9		寒天モミ希少個体群保護林	希少	75	11.29	5	○					○						○								○							上層を構成するモミについては健全な状態で維持されているが、次世代を担うモミなどの低木や稚樹の個体数は僅かであった。ニホンジカによる過食圧によりプロット内の林床植生の植被率は著しく低下している。
10		黄楊の峯ツゲ希少個体群保護林	希少	76	18.85	5	○					○						○															保護対象種であるツゲの生育地は131-1周辺の保護林北部であるが、健全に生育している。次世代を担うツゲの低木についてはプロット内で確認されている。
11		浄運ウラジロガシ・アカガシ希少個体群保護林	希少	77	37.35	5	○					○						○								△		○	◎			○	上層を構成するカスミザクラなどの落葉高木やアカマツの老齢木は健全に生育している。ニホンジカの過食圧により、林床植生はほとんど見られない。
12		白川ウラジロガシ遺伝資源希少個体群保護林	希少	78	5.08	10	○					○						○															調査プロット内にはニホンジカによるものと思われる食痕が散見され、林床植生についてもニホンジカの忌避植物とされる植物の被度が高くなっていた。 ・上層のシイ・カン類の大径木は健全に生育しているが、次世代を担う中低木は少なく、植生調査でも低木及び草本層に僅かに確認されている。
13		しらぬたの池モミ・スギ希少個体群保護林	希少	79	39.96	5	○					○						○															・121-1の上層を構成するモミの大径木については健全に生育しているが、モミの低木、稚樹、実生は全く生育していない。 ・ニホンジカの食害により影響が著しく、林床植生はほとんど確認できない。 ・121-2のモリアオガエルの生育環境については、過年度調査と比較し、大きな変化は認められなかった。
14		長九郎シャクナゲ希少個体群保護林	希少	80	7.38	5	○					○						○															小円部及び中円部において確認されたキョウマルシャクナゲは6本であるが、林内の樹冠が閉鎖しており、他の常緑広葉樹と競合している。次世代を担う、稚樹や実生の個体数は僅かに確認された。
15	猫越ウラジロガシ希少個体群保護林	希少	81	11.28	5	○					○						○															上層を構成するウラジロガシの大径木にナラ枯れの被害が見られる。また、ニホンジカの食害による被害が顕著に現れており、保護林内の林床植生はほとんど見られない。	

※5年の要素

ア：遷移の途中段階にある保護林

イ：復元を行っている保護林(生物群種保護林のみ)

ウ：保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林

エ：保護林外部からの影響を受けている保護林

オ：鳥獣・病虫害被害及び移入種による影響が顕著にある保護林

カ：温暖化による影響が顕著にある保護林

キ：その他、短期間で大きな変化が想定される保護林